



ともしび通信

vol.80

2014年7月発行

〒658-0081 神戸市東灘区田中町5丁目3番20号(生活文化センター西館2階)
TEL.078-412-3930 FAX.078-412-3871 <http://www.tomoshibi-found.or.jp/>
発行人：山口 一史 編集人：山添 令子

「ともしび通信」の発送は、ボランティアのみなさんに協力いただいています。

「市民活動交流会2014」開催

あなたらしく生きるためのサードプレイス(第3の場)とは ～無縁社会に負けない地域での生き方～

5/21(水)
東灘区民センター
「うはらホール」にて

<I部>

「つながって生きるおひとりさま時代」をテーマに、上野千鶴子さん(認定NPO法人ウイメンズアクションネットワーク〈WAN〉理事長)の講演を実施。「おひとりさまの老後問題は、家族頼みの老後設計しかなかったことが大きな要因。家族・親族に替わり自ら選ぶ『選択縁』をつくっていこう」「誰もが弱者になっていく超高齢社会では、『助けて』と言える『弱さの情報公開』が必要」など、自分らしい生き方を考えるヒントや近年話題の「居場所づくり」の事例紹介もありました。



たびたび聴衆を沸かす上野さん。今年度は一般公開型で開催(会場は大入り満員でした!)

<II部>

「私にとってのサードプレイス」と題し、上野さん、中田恵海さん(〈特活〉ひょうごセルフヘルプ支援センター代表)、中村保佑さん(東灘こどもカフェ代表)によるパネルディスカッションを実施。「どうすれば男性を活動に巻き込めるか」「当事者同士だからと



川中大輔さん(シチズンシップ共育企画代表)の進行で盛り上がる会場

いって関係がうまくいかない場合のグループ運営は」など、上野さんから次々に繰り出される質問に、ホンの議論が沸騰。参加者からは、「ボランティアは、まず自分のために楽しく!という上野さんに共



ロビーでは多彩なグループ活動を展示。情報交換の場として大いに賑わった

感」「中田さんの実体験によるセルフヘルプ活動に胸を打たれた」「中村さんの活動は退職後の生き方の参考になった」等の声も聞かれました。

最後に、2014年度助成決定者に助成金を交付。今後も活動者・支援者(賛助会員・寄付者)・当財団の絆を深めることで、課題解決に向けて努力していきます。

新理事長就任のご挨拶

ますます役割は大きく



理事長
山口 一史

ともしび財団が発足した直後に、財団が果たすべき役割をテーマにした研究会ができて、私もその一員として議論に参加した記憶があります。そのときは、財団はまったくの白地でしたが、今日、多くの方に支えられて広範な分野に活動の足跡を刻んできています。

各地で高齢化が進み、社会のさまざまな仕事の担い手の不足が心配されるようになって、ともしび財団の役割はますます大きくなってきています。社会からの期待も高まってくるでしょう。

ボランティアな活動がいつそう活発になるよう皆さんと一緒に頑張っていきたく思います。

*同じ問題や悩みを抱えた当事者が自発的に集まり、支え合うことで生きる力を取り戻していく活動